

1 目指す学校（スクールミッション）

「立志、相和、向上」を目標とし、三部制、単位制の特色を生かした誰も置き去りにしない個に応じた学習や進路指導、外部関係機関等との連携による個に応じた支援をとおして、自己の課題に向き合い、努力するとともに、社会が直面する課題解決に向けて、自分にできる役割を發揮し、他者と協働して取り組む人材を育成します。

3つのポリシー

(1) グラデュエーション・ポリシー

今を生きる自分の課題に向き合い、努力することができる力及び社会が直面する課題の解決に向けて、自分にできる役割を發揮し、他者と協働して取り組むことができる力の育成を目指す。

(2) カリキュラム・ポリシー

ア 年間授業計画をもとに、生徒が「面白い・分かる・もっと学びたくなる授業」を徹底する。その際、個々の生徒の課題を把握し、学び直しや発展的な学習に個別に対応することで、「基礎・基本の知識・技能」「多様な思考・判断・表現」「生涯にわたって学びに向かう力」を育成する。また、学校外における学修による単位認定を活用し、個別の課題解決を図る力を育成する。

イ 生活指導規定に基づきながらも、生徒の個別の状況を考慮しつつ画一的ではない生活指導、授業規律指導、マナー挨拶指導を徹底し、生徒の規範意識の育成を図る。

ウ 学校行事等の特別活動を充実させることで生徒の主体性、社会性及び協調性を養い、豊かな人間関係を構築していく力を育成する。文化祭等の学校行事や部活動において、体力向上を含め、心と体の健康づくりを推進し、他者を思いやる心と豊かな感性と思考力・判断力・表現力を涵養する。

エ 「総合的な探究の時間」や進路行事等で、系統的なキャリア教育を実施し、個に応じた指導を充実させ、生徒に社会人としての「在り方・生き方を考える力」「社会性やコミュニケーション能力」を育成し、「望ましい勤労観・職業観」を培い、進路実現を図る。

オ 組織的な自立支援及び学校教育相談機能を充実させ、生徒の不安や悩みに適切に対応する環境を構築する。個別に支援が必要な生徒に対して、積極的に外部人材を活用し、本校の主たる教育活動に参加できるよう個別に支援する。

(3) アドミッション・ポリシー

以下のすべてを身に付けようと志す生徒の姿を期待する。

- ① 社会の問題を自分の問題として捉え、社会の一員として積極的に解決しようとする姿勢
- ② 人との関わりの中で、いつまでも成長し続けるための力や自分を表現する力
- ③ 自分と他者との違いを認め、それらを平等に尊重して生きていく姿勢

2 今年度の学校経営計画の重点的取組目標

◎不登校生徒(251名)、中途転退学者(退学104名、転学26名)の減少を最重要目標とする。

◎卒業年次生徒の進路決定率(64.0%)を向上させることを重点目標とする。

○生徒の基礎学力の向上と「個別最適な学び」で生徒の学習意欲を高めるとともに、履修した科目の単位修得率を向上させる。

○OSC・自立支援チーム等と連携し、個別に支援が必要な生徒に対して組織的な支援をおこなう。(特別支援教育の推進)

○生徒の実態に合わせ、3年間でも卒業しやすくなるように教育課程を見直し、魅力ある学校づくりをおこなうとともに、広報活動を充実させ募集倍率の向上を図る。

3 中長期的な取組目標と方策 ☆中長期的目標 ○取組目標と方策

【教育課程・学習指導】

- ☆一人一人の生徒に対して、キャリア形成の土台となる基礎学力を確実に身に付けさせる学習指導の充実を図る。さらに「探究的な学び」「主体的な学び」とおして、自ら学び、考える力を養う。
- 「面白い、わかる、もっと学びたくなる授業」で学習意欲を高め、基礎学力の向上を図る。
- 学習が遅れがちな生徒、個別に支援が必要な生徒に対して、柔軟な教育活動を行い単位修得率の向上を図る。
- ICTを活用した個別最適な学びを推進する。
- 教育課程を見直し、新しい講座を設定し、3年での卒業をしやすい仕組みを学校全体で整える。

- | | | |
|--------------|-----------------|------------|
| ・授業改善 | ・単位修得率向上の取組 | ・教員相互授業見学 |
| ・授業評価(授業満足度) | ・個別課題の提示、補習指導 | ・一人1台端末の活用 |
| ・長期休業中の補習、講習 | ・スタディサプリの効果的な活用 | ・教育課程検討 |

【進路指導】

- ☆多様な進路に対応した進路希望の実現を図るために、系統的なキャリア教育を実施し、希望進路の実現、自ら未来を切り開く力を身に付けさせる。
- 総合的な探究の時間を活用し、4年間または3年間を見据えたキャリア教育により一人一人の進路意識を高める。
- 組織的な進路指導をおこない、卒業年次生徒の進路決定率を高める。
- 探究活動、体験活動、資格取得をとおして、自らの将来を考える力、進路を切り拓く力を育成する。

- | | |
|-------------------------------|---------------|
| ・三者面談期間の活用、保護者との連携強化 | ・総合的な探究の時間の充実 |
| ・就労支援プログラムの活用 | ・キャリアパスポートの活用 |
| ・総合支援部、自立支援チーム、日本語指導教員等との連携強化 | |
| ・校外における学修による単位認定、資格・検定試験の活用 | |

【生活指導】

- ☆基本的な生活習慣の定着と規範意識の育成を図る。また自他の生命を尊重する精神や豊かな人間関係を育むための道徳教育を推進する。
- 全教員で統一した指導をおこない、基本的な生活習慣の定着と規範意識の育成を図る。
- 特別活動、部活動、地域活動をとおして、自己有用感を高めるとともに、豊かな人間関係を育む。

- | | |
|------------------------------|-----------------------|
| ・授業規律、遅刻指導、挨拶指導 | ・暴力、いじめ未然防止、SNSの適正な指導 |
| ・部活動活性化(部活動加入率向上) | ・体力向上及び健康の保持増進 |
| ・主体的活動の育成(文化祭、スポーツ大会、委員会活動等) | |
| ・地域と連携した体験活動、防災教育の推進 | |

【教育相談・自立支援】

- ☆悩みや不安を抱える生徒に対して組織的な相談体制を構築するとともに、個別に支援を必要とする生徒に対して効果的な支援をおこなう。
- 保健室、SC、YSW、自立支援チーム等と連携し、情報共有をしながら、個に応じた支援を組織的におこなう。
- 生徒の悩みや不安、SOSを拾い上げる相談体制を充実させ、安心して登校できるようにする。
- ダイバーシティ推進校、在京入試実施校として日本語指導の充実と異文化理解を推進し、グローバル人材の育成を図る。
- 医療的ケアモデル実施校として、外部機関と連携しながら安全に実施する。
- 「新たな教育のスタイル」研究校として、不登校生徒の学習保障に対して、校内別室におけるオンライン等の学習環境を整えていく。

- | | | | |
|--------------|------------|-------------------|---------|
| ・不登校対策 | ・通級指導 | ・支援方針会議 | ・個別指導計画 |
| ・校内研修 | ・生徒の居場所づくり | ・生命に関わる事故未然防止 | |
| ・いじめの未然防止 | ・日本語指導 | ・ダイバーシティ推進校としての取組 | |
| ・オンライン授業環境整備 | | | |

【地域連携・広報活動】

- ☆本校の魅力を地域に発信し、地域での学校理解や生徒理解に広げ、志望者の開拓につなげる。
- 地域の自治体、近隣小中学校との交流を推進し、学校の魅力を地域に発信していく。
- ホームページの充実、外部での学校説明会など積極的に広報活動をおこない、志望倍率の向上に努める。

- | | |
|-----------------|----------------|
| ・地域ボランティア活動への参加 | ・ホームページの有効活用 |
| ・分割前期募集での倍率向上 | ・外部説明会への積極的な参加 |

【学校組織・その他】

- ☆三部制単位制高校として、教育活動充実のために必要となる施設の活用と人材確保に取り組み、自律予算等の効果的な執行を図るとともに、教職員と経営企画室との連携を充実させる。
- 職員室と経営企画室の連絡を密にし、協力体制を強化する。
- ライフ・ワーク・バランスを考慮した働き方改革を進めるとともに、デジタル技術の推進により、業務の効率化を図る。
- 開課程 20 周年式典に向けて、学校全体で取り組む。

- | | | |
|-------------|--------------------|---------|
| ・明るい職場環境づくり | ・時間外在校時間 45 時間未満/月 | ・休暇取得促進 |
| ・ペーパーレス化促進 | ・サービス事故防止 | |

4 数値目標

- ①進路決定率 80%以上 (R7 64.0)
- ②不登校生徒 180 名以下 (R7 251) 中途転退学 80 名以下 (R7 130・転学 26 退学 104)
- ③履修した科目の単位未修得人数 5 名未満 (R7 44)
- ④全校生徒の遅刻回数 1 人当たり換算 15 回未満 (R7 一人当たり換算 18 回)
- ⑤英検や漢検等の各種資格・検定試験の合格者数 180 (R7 160)
英語検定 (20) 漢字検定 (20) ニュース時事検定 (30) 日本語ワープロ検定 (20)
- ⑥教員相互の授業見学 180 回 (一人当たり 3 回以上を目標)
- ⑦部活動加入率 32% (R7 31.1%)
- ⑧教員校内研修 (各分掌の教員研修) 15 回
- ⑨長期休業中及び放課後の補習、講習 15 講座 100 時間
- ⑩分割前期募集の倍率 0.8 倍 分割後期募集 0.6 倍
- ⑪月 45 時間以上時間外在校時間教員延べ人数 50 名以下 (R7 69)
- ⑫一般需用費のセンター執行割合 50% (R7 30)